

## 「ツマグロヒョウモンのサナギ」

一週間ほど前に、学習支援員の先生が、虫かごに1匹の幼虫を入れて持ってきてくれました。庭のスマレの葉を食べているといいます。ああ、ツマグロヒョウモンの幼虫だなと思って見ると、果たしてその通りでした。ツマグロヒョウモンの幼虫は、黒くてケバケバして、いかにも毒蛾か何かの幼虫のように見えます。(実際には毒はなく安全です。)これは、これは毒のある蝶(カバマダラ)に擬態して、身を守っているという説もあります。ツマグロヒョウモンは比較的普通の蝶ですが、被擬態蝶のカバマダラのほうは、本州ではほとんど見られません。

アゲハやモンシロチョウとちがって、ツマグロヒョウモンはお尻だけを固定して、葉や枝にぶらさがってサナギになります。どうやってサナギになるのかしらん、と楽しみにしていると、幼虫のまま虫かごの蓋にぶらさがって、翌朝サナギになっていました。残念ながら、うまくお尻を固定できなかったようで、その後、虫かごの底に落下してしまいました。(でもちゃんと生きてました。)

子どもたちも私自身も、ツマグロヒョウモンのサナギを見るのは初めてです。よく観察すると、背中側にキラキラ光っているものがあります。

### 【子どもの驚きの声】

「このサナギ、ラメがついてる。キラキラしてるよ。」

「金色の粒がついてる。すごくきれいだよ。」

見れば、確かにサナギの背中に、黄鉄鉱のような金属光沢(真珠光沢にも見えます)を持った粒が2列に並んでついています。このサナギを初めて見た私は、あまりに美しくキラキラ光っているので、誰かがサナギにいたずらでもしたのだと思ったほどです。これではサナギは身を守るところか、かえって目立ってしまいます。いや、毒のあるサナギの真似をして、わざと目立っているのかも知れませんね。

何よりも不思議なのは、あのグロテスクな幼虫がサナギになる時に、どうやってこの金ピカの粒をたくさん造れるのか・・・ということです。(2枚目に写真があります)

### 【写真①】

ツマグロヒョウモンのサナギ。大きさは約3cm。背中に金属光沢を持った突起が2列10個ついています。実際に金属でできているのではなく、透明な薄い膜が何重にも重なって、金属光沢に見えるのです。角度によって、金・銀・緑金・赤金などに見えます。

### 【写真②】

突起の一つを拡大した写真。美しい金属光沢で、どう見ても純金でできたオブジェです。わずかに緑色の光沢が見えます。先端は黒くなっていることがわかります。

(×100 / 光学顕微鏡写真 / 反射光で観察 / 撮影 ; 田中 千尋)



↑ 写真① ↓ 写真②

